

平成28年度 第1回学校協議会議事録概要

日時 平成28年5月27日(金) 15:30~17:20

場所 大阪府立堺工科高等学校 会議室

1.開会のあいさつ(校長)

2.自己紹介

- ・委員の自己紹介
- ・学校側事務局担当者の紹介

3.任期について

4.校長より

- ・学校経営計画について

5.事務局より

- (1)生徒指導<別紙資料により説明>
- (2)進路指導<別紙資料により説明>
- (3)環境化学システム系<別紙資料により説明>
- (4)機械系<別紙資料により説明>
- (5)電気系<別紙資料により説明>
- (6)資格支援センター<別紙資料により説明>
- (7)その他

6.協議

○学校長や事務局の話をもとに、本日は特に議題を限定することなく、2016年度のメンバー6名のそれぞれの立場に関連したポイントで。

- ・長男は堺工科の卒業生で、三男は2年生在学中である。目的をもって学習に取り組みれば結果が表れる。子どもの話から、周りの生徒も学年進行と共に落ち着きが出てきていると感じられる。
- ・会社としては、工科高校から多く採用したい。工科高校から来た人は、1から教えなくても、初日から実践して働いてくれている実感を得ている。作業着の着こなしや動きも上手で、何も心配することはない。授業でものづくりに取り組んできたことが生かされていると感じる。
- ・資格取得については、異業種から転職して来られる方は苦労しているので、その意味で重宝している。

○途中退室する生徒の原因について。

- ・入学した当初は、勉強を理解しようとしても集中力が続かず、逃げたい気持ちが出てくるからだと考えられる。また、子どもの時の躰という面が大きいのかもかもしれない。
- ・幼児体験が十分できていないということも感じる。

○途中退室と集中力、理解力の相関は？

- ・相関ははっきりある。躰や体ができていないという面もあるが、「授業がおもしろくない」というのが大きな原因と感じている。途中退室は一種の意思表示であると考えてもよい。
- ・校内研修で、お互いの授業をチェックして授業改善に向かうような質を保っている学校は多くない。
- ・授業改善をやらうと思えばそれなりの手立てが必要になってくる。小中学校、普通科高校と異なり、工業高校は専門性が高い授業をするので、かなりの工夫がないと難しい。
- ・初任の先生が増えると、よい授業のイメージを持つのが難しい。授業モデルが必要である。
- ・専門性というところで、同じ系の中での授業見学はどうか。
- ・「授業アンケート」の中で、生徒たちの理解度(わかったつもりになっている点も含め)と先生方の教えきれていないという思いの間にギャップがあると結果にでている。
- ・資格と連動している科目はわかりやすい。連動していない科目は、うまく説明しないとわかりにくい傾向があるとは考えられる。

- ・大学生でも、先生方の指導を十分に受けきっていない。子どもに対して保護者からの援護も必要である。
- ・入社(入学)すれば何とかなるという意識が若い人ほど傾向が強い。教える側と聞く側の間で、伝えているつもりが伝わっていないことが問題であると考える。

○今年度、定員割れしたように、今厳しい状況ある。改善に繋がる提言はないか。

- ・HP等による情報提供を充実させるとい。堺工科のHPはよくできている。口伝えでも、保護者を含むも多くの方に見てもらえるようにPRすることがとよいと思う。
(HPは、2月にパソコン、スマホで同じHPが見られるように刷新。スマホからのアクセスが多い)
- ・就職先企業名が載っているのもよい。親にアピールすることが大切である。
- ・昨年からの提言している「情報発信力」がアップしてきていると思う。

7.閉会の挨拶(校長)

8.次回の予定

- ・授業見学及び授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえて協議を予定。